

## 事業報告書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

### 公1 児童養護施設で生活する児童への支援

#### 1 文通事業

児童養護施設で生活する子どもたちを励ます目的で、札幌市及びその近隣市町村に所在する児童養護施設の子どもたちと文通し、実施に当たり必要な研修を次のとおり行なった。

- 1) 文通を希望する子どもたちと会員が、1対1で、平均1ヶ月1回文通した。  
平成30年度の文通実施延回数は約750回であった。  
平成30年度は、新たに6組の子どもと会員が文通を始め、卒業や退所等により17組が文通を終了した。
- 2) 文通した児童養護施設は次のとおり。  
札幌南藻園、興正学園、羊ヶ丘養護園、柏葉荘、ふくじゅ園、  
天使の園、櫻ヶ丘学園（以下、「児童養護施設」と言う。）  
※ 平成31年3月31日現在の文通児童数は54人、文通会員数は50人
- 3) 文通会員のつどいを次のとおり開催した。

文通の現状について話し合い、学ぶため、「第43回文通会員のつどい」を、平成30年8月30日(木)、札幌サンプラザで開催した。会員46人、児童養護施設代表10人が参加し、文通をするあたり抱える疑問点などについて確認し、施設担当者から回答を得た。なお、その内容を「心の里親しんぶん第228号(4面)」に掲載した。

#### 2 施設訪問事業

児童養護施設が主催する行事に参加し、子どもたちと交流し、その育成に寄与するため「施設訪問」を行った。実施内容は次のとおり。

- 1) 札幌南藻園(3日間 18人)  
南藻園祭り 9月16日 6人、クリスマス会 12月23日 6人  
卒園・卒業生激励会 3月9日 6人
- 2) 興正学園(3日間 37人)  
新入学児童を祝う会 4月21日 9人  
生活発表会 12月22日 24人、卒園式 3月17日 4人
- 3) 羊ヶ丘養護園(6日間 18人)  
家庭塾 6月23日 2人 7月21日 2人 8月18日 1人  
10月14日 2人  
園内祭 9月1日 6人、クリスマス会 12月25日 5人
- 4) 柏葉荘(1日間 9人)  
柏葉まつり 9月1日 9人
- 5) ふくじゅ園(2日間 23人)  
交流会 10月13日 16人 キャンドル礼拝 12月23日 7人
- 6) 天使の園(3日間 33人)  
エンゼル祭 9月23日 12人 交流会・メモリアルデー 11月23日 7人

- 卒園・退園式 3月24日 14人  
7) 櫻ヶ丘学園(1日間 28人)  
奨学金授与式・交流会 7月14日 28人

### 3 家庭実習事業

- 1) 平成30年度は、文通会員宅に文通児童が宿泊して行う家庭実習は行わなかった。
- 2) 児童養護施設の小学生が、次のとおり、会員宅で一泊二日間のお泊り会を行った。  
内容は、買い物・食事会・レクレーション・絵手紙研修など  
8月7日(火)、8日(水) 興正学園の11人の児童 先生3人、会員13人が参加  
8月8日(水)、9日(木) ふくじゅ園の5人の児童、先生1人、会員12人が参加

### 4 新しい出発を励ます会事業

文通から始まる当法人の支援活動は、奨学金給与や施設訪問活動等を行い、高等学校卒業で終了する。児童養護施設を卒園し就職・進学する子ども(卒業の日まで、この法人の奨学生であった者)を対象に、「新しい出発を励ます会」を開催した。児童のこれまでの苦労と努力を労い、新しい門出を祝福・激励した。内容等は次のとおり。

- 1) 開催 平成31年2月16日(土)、札幌サンプラザで
- 2) 参加 卒業生35人(卒業生39人の内4人は研修等のため欠席)、会員等94人
- 3) 内容 来賓祝辞、文通していた卒業生と文通会員とのエピソード紹介  
卒業生の今後の進路や決意の発表、卒業生代表の謝辞
- 4) 贈呈 新生活を始めるに当たり必要な品物を、当法人・企業・個人から贈呈した。  
(ソックス、靴下、マグカップ、タオル、歯磨きセット、爪切り、食器洗剤スポンジ等)

### 5 小学校入学祝寄贈事業

児童養護施設に在籍中で、平成31年4月から小学校1年生に就学する児童に、通学に必要な品物を2月25日に次のとおり寄贈した。

- 1) 寄贈品 通学用の靴、筆入れ、鉛筆、消しゴム、靴下
- 2) 寄贈先 札幌南藻園4人、興正学園3人、柏葉荘1人、天使の園5人、  
櫻ヶ丘学園2人 合計15人  
(羊ヶ丘養護園・ふくじゅ園は入学者なし)

### 6 クリスマスプレゼント寄贈事業

平成30年度は、クリスマス頃、児童養護施設の子どもたちに生活用品を寄贈するこの事業を行わなかった。

### 7 展覧会事業

児童養護施設の子どもたちが、展覧会に出品する作品制作に努力し、或いは、作文を書きいろいろなことを見つめるなど、展覧会事業参加を通じ子どもたちが成長する機会を与えることを目的としてこの事業を行う。併せて、展覧会で大勢の方に子どもの作品を観て頂き、児童福祉や子どもの教育について、改めて考えて頂く機会になることを期待しこの事業を行う。平成30年度は次のとおり。

## 1) 募集と応募

平成30年8月、児童養護施設に対し「絵画展及び書道展並びに作文コンクール」の開催を知らせ出品を勧めたところ次のとおり応募があった。

①絵画展 82人 ②書道展 32人 ③作文コンクール 13人

## 2) 審査会を開催し優秀作品を選考した。審査員と審査内容は次のとおり。

①絵画展 平成30年10月4日(木)開催。審査員 阿部 宏行 氏  
優秀作品18点を選考。

②書道展 平成30年10月4日(木)開催。審査員 石原 北陽 氏  
優秀作品12点を選考

③作文コンクール 審査員 渡邊 知樹 氏  
優秀作品3点を選考

選考理由を、展覧会場に掲示した他、「表彰式」で審査員が講評、「心の里親しんぶん第228号」に掲載した。

## 3) 展覧会開催

次のとおり、絵画・書の展覧会を開催した。

平成30年11月1日(木)～6日(火) 札幌市地下街オーロラタウン(全作品)

## 4) 表彰式開催

優秀作品の表彰式を次のとおり開催した。

①開催 11月17日(土)、札幌サンプラザで

②参加 94人(受賞者 27人 会員他 67人)

③内容 表彰、お祝いの言葉、入賞者代表の言葉、第一席作文朗読、

④入賞者に賞状と楯或いはメダルを、選外の子どもには賞状を、そして応募者全員に参加賞(文房具、筆、原稿用紙、絵具等)を出賞した。

## 8 広報事業

### 1) 心の里親しんぶん発行

①発行期日 227号(7月15日)、228号(1月15日)

②発行部数 各号とも1,300部

③主な内容 実施した事業の報告、法人からのお知らせなど

④配布先 公共施設、支援者、他

### 2) ホームページ

内容 法人紹介、活動報告、情報公開、

## 9 心の里親フェア開催事業

児童養護施設を対象に行っている活動を知らせ、支援を求める目的で、次のとおりこの事業を開催した。

1) 開催 9月15日(土)、午前10時～午後2時00分 札幌市民ホール会議室

2) 内容 展示、手作り品販売、喫茶、心の里親しんぶん等の配布、

3) 参加 来客等含め約200人

## 10 活動報告会事業

平成30年度は、法人の活動内容について報告するこの事業を行わなかった。

## 11 奨学金給与事業

児童養護施設で生活し、高等学校等で修学する子どもたちに、奨学金を給与した。修学にかかる経済的負担を軽減し、勉強や部活に励み、将来を担う立派な社会人になることを願い、次のとおり行った。

- 1) 募集 平成30年3月16日、児童養護施設代表に平成30年度奨学生の募集について説明し応募要領と応募に必要な書類を配布した。
- 2) 選考 6月6日(水)、奨学生選考委員会を開催、書類審査により応募者94人を理事会に推薦した。
- 3) 認定と通知 6月7日(木)「平成30年度第2回理事会」で、奨学生応募者94人を平成30年度奨学生として承認し、そのむね通知した。
- 4) 奨学生 学校は、普通科課程70人、高等養護学校23人、通信制1人  
学年別は、1学年33人、2学年20人、3学年38人、4学年3人、  
(但し、以上の人数には、前年度も奨学生であり、引き続き更新し奨学生になった者を含む。)
- 5) 奨学生認定式・奨学金授与式開催
  - ①開催 6月16日(土)札幌サンプラザで
  - ②参加 初めて奨学生になった札幌市内と北広島市の児童養護施設の奨学生(22人)
  - ③内容 会長訓示、奨学生認定書交付、今年度の奨学金の給与
  - ④櫻ヶ丘学園(仁木町銀山)は、7月14日(土)に当学園で開催
- 6) 辞退  
児童養護施設から退所により、次のとおり辞退があった。  
8月 1人、9月 2人、10月 2人、1月 4人(合計 9人)
- 7) 給与 奨学金(年間1人2万円)を一括で給与。
  - ① 給与日 6月16日(72人) 7月14日(櫻ヶ丘学園22人)  
給与延人数94人

## 収1 前売券販売

この法人への支援をお願いするため、この事業を行なった。

- 1) 内容 「福祉協賛札幌夏祭り大通ビアガーデン」の前売券販売活動
- 2) 期間 6月1日から8月10日まで
- 3) 対象 個人、団体、企業

(参考)

全事業の活動延人数と活動延時間(支部活動報告より)

公益事業 1, 298人 4002時間